

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	22104		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	音楽の理解		担当者名	高崎 展好			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

音楽のルールを学びます。音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を理解し、ピアノ演奏に必要な読譜力、コード（和音）の知識を身につけることを目指す。この授業では、音楽の理解を深めるとともに、歌唱を通じて音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムを体感し、楽譜を理解することから音楽の楽しさを会得する。

<授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽基礎力を身に付ける。②歌唱に必要な基本的発声、柔軟体操、表現力を身に付ける。③ピアノ演奏に必要な和音（コード）の学習し、簡単な伴奏法の習得を目指す。また基礎的な楽譜の読み書きとリズム・ソルフェージュを行い視唱力を高める。コードネームを用いて簡単な伴奏付けをできるようにする。

<授業の方法>

講義を中心に授業を行う。またリズム学習、ソルフェージュ、歌唱指導も併せて行う。講義では教科書を中心に学習するが、練習問題や楽譜、資料などを配布することが多いため、各自ファイルを毎時間持参すること。各テーマ（単元）で小テストを実施し習熟度を測る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に従って予習し、講義、演習で学んだ内容は必ず復習すること。次週課題（事前予告）の予習 60分、これまで学習した課題の復習 60分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、小テスト、提出物 20%、定期試験 50%

<教科書>

坪野春枝（発行2016年5月15日 第78版）

最もわかりやすい楽典入門

<参考書>

教芸音楽研究グループ（発行2013年11月20日 第6刷）

音楽通論

教育芸術社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の確認歌唱指導
2	楽譜の仕組み1	譜表
3	楽譜の仕組み2	音符と休符
4	楽譜の仕組み3	音名
5	楽譜の仕組み4	拍子
6	楽譜の仕組み5	様々な記号:発想記号、速度記号、省略記号
7	楽譜の仕組み6	リズム
8	楽典1	長短系の音程
9	楽典2	完全系の音程
10	楽典3	音階
11	楽典4	和音の種類、三和音、七の和音
12	楽典5	コードネーム
13	楽典6	コードネームを使用したピアノ伴奏法
14	まとめ	復習とまとめ
15	定期試験、総括	定期試験60分、振り返り、まとめ

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	23208		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育心理学 A		担当者名	小島 啓子			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本講義では、教育心理学分野の理論や知見を踏まえ、子どもを心理学的に理解することを目的とします。本講義では、教育心理学のなかでも教育を受ける人、児童生徒の特性に関する内容を中心に、発達・学習・記憶・動機づけ・性格・不適応等のテーマを取り上げることになります。

<授業の到達目標>

1. 教育心理学の基本的な知識を習得する。2. その知識を整理し、論述・発表できるようにする。3. 教育現場での課題を教育心理学の面からもアプローチできる。

<授業の方法>

授業は講義形式で行い、適宜、資料も配布します。また授業の最初に、前回授業の復習のため小テストを行います。実践的な課題に対して、グループでのディスカッション等も取り入れます。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：授業内容部分の教科書を熟読しておくこと。（1時間）復習：前回授業の定着についての小テストを行います。授業の内容を自分なりに情報を整理しておくこと。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目はこども発達学科のディプロマポリシー2（乳幼児期から青年期に至るまでの子どもに対しての発達の、教育的、心理的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている）を習得するための科目であり、またディプロマポリシー3（子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況に対して、子ども学の知見と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている）に関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 20%、小テスト・レポート 40%、試験 40%。小テスト・レポートについては、授業で、ポイントを整理します。

<教科書>

櫻井茂男他（2012）実践につながる教育心理学

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション／教育心理学の概説	講義の進め方・成績評価等についての説明。教育心理学についての説明。
2	発達① 発達の基礎	人の心身の発達について。こどもの発達の特徴、規定する要因等についての理論や、エリクソンの発達段階について概説する。
3	発達② 認知発達	ピアジェとヴィゴツキーの認知発達理論について学ぶ。
4	学習	条件付けや観察学習等の学習理論、それを実践にいかす技法について学ぶ。
5	記憶	記憶、忘却、問題解決、思考等について学ぶ。
6	動機づけ	意欲を高めるために、学習意欲、外発的・内発的動機付け、原因帰属等の理論について学ぶ。
7	まとめとディスカッション	これまでの授業の復習・まとめの課題に対してのレポートを作成する。それをもとにディスカッションを行う。
8	自己とパーソナリティ① 自己 パーソナリティの理論	自己概念や自尊感情 パーソナリティの理論、適応規制について概説する。
9	自己とパーソナリティ② 心理アセスメント	知能や性格のアセスメントについて 検査法を中心に学ぶ。
10	人間関係と社会性	コミュニケーションの発達、家族や仲間との関係、道徳性や社会性の発達について。
11	学級集団	学級集団の特徴や機能、子どもと教師の関係やクラス内の人間関係について。
12	学校不適応	学校生活に起因するストレスや不登校、非行、学校不適応について。
13	発達障害①	知的障害、ASD、ADHD、LD等の定義や現状、アセスメントについて概説する。
14	発達障害②	発達障害に対する応用行動分析などの教育的アプローチ方法について。
15	まとめとディスカッション	これまでの授業の復習・まとめの課題に対してのレポートを作成する。それをもとにディスカッションを行う。

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	23104		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	発達心理学 A		担当者名	小島 啓子			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

発達心理学は胎児期から老年期までの生涯にわたるヒトの身体、行動、能力などの発達を科学的に解明し、理解することを目的とするものである。授業では、主に胎児期から青年期までの発達を中心に、発達心理学の基礎知識や理論とともに、実践に役立つ具体例や研究知見等も取り上げ、講義やディスカッションを行う。

<授業の到達目標>

1. 発達心理学の基本的な知識や理論を理解する。
2. 特に保育の領域に必要な発達のプロセスの知識や初期経験の重要性について理解する。
3. 生涯発達の観点から、人間の発達を連続的に捉える。

<授業の方法>

教科書を基に講義形式で行い、資料を配布する。適宜グループワークやディスカッションを行う。授業開始時に前回の復習小テストを行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習として授業部分の教科書を読んで理解しておくこと。（1時間）復習小テストは授業でも重要な内容であり十分復習をしておくこと。（30分）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目はこども発達学科のディプロマポリシー2（乳幼児期から青年期に至るまでの子どもに対しての発達の、教育的、心理的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている）を習得するための科目であり、またディプロマポリシー4（家族と地域をめぐる子どもの環境を整備・改善するためのコミュニケーション能力を身に付けている。）にも関連付けられています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度・学習意欲 20%、小テスト 30%、試験 50%。小テストについては、授業内で回答しポイントを整理する。

<教科書>

相良順子他（2018） 保育の心理学 第3版

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	発達心理学とは何か、講義の進め方、評価についての説明
2	子どもの発達を理解することの意義子どもの見方・とらえ方	子どもの発達を学ぶこの意義や、発達観、子ども観、保育観について概説する。
3	子どもの発達と環境身体発達と運動機能	発達の理論や初期学習の重要性と、身体や運動機能の発達のプロセスについて
4	知覚と認知の発達	乳幼児期の見ることや考えることについてピアジェの認知発達理論
5	情緒発達と自己の形成	乳幼児期の情緒発達についての理論や実験と、達成動機や自尊感情についても概説する
6	ことばの発達	ことばやコミュニケーションの発達、読み書きの習得について
7	人との相互的関わり基本的信頼感の獲得	基本的信頼感や愛着の発達に関する代表的な理論について、エリクソンやボールビー理論を中心に概説する。
8	人との関わりについて	人が他者の気持ちを理解することについての知見について概説する。ミラーニューロンや観察学習、心の理論、ASD等。
9	友人関係と遊びの発達	友人関係や遊ぶことを発達心理学的な観点から概説する
10	学びの発達 記憶と学習	記憶やの発達や、基本的な学習理論について概説する。
11	動機づけ発達段階と発達課題	やる気につながる動機づけについて説明する。発達段階や発達理論はエリクソンやハヴィグアストの理論を中心に概説する
12	生涯発達と発達援助 ①胎生期・乳幼児期	胎生期から乳幼児期までの発達の様相や発達援助について、発達の援助者としての実践的な視点も学ぶ。
13	生涯発達と発達援助②児童期・青年期・成人期以降	児童期から成人期以降までの発達の様相や発達援助について、援助者としても実践的な視点も学ぶ。
14	発達援助と評価	発達援助の意義や実際。発達の評価や発達検査について概説する。
15	まとめ	授業のまとめ 重要な項目についての振りかえりを行う。

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	34101		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育内容総論		担当者名	檜 日佳			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容を相互的、総合的に理解し、保育の全体構想の中でとらえる。保育の目標、子どもの発達、「遊び」や「生活」、「環境」などから捉える保育の内容、歴史の変遷、今日的課題などを学び、保育所・幼稚園・こども園において展開される保育や教育への実践力を高めていく手立てを考察する。また、実際の指導に当たっての指導案作成についても学ぶ機会とする。

<授業の到達目標>

1. 保育内容各論の内容について子どもの遊びや生活の中で総合的に捉える視点を持つことができるようになる。2. 保育者の役割と援助等、保育者の専門性を理解する。

<授業の方法>

教科書に沿って講義と演習を行う。資料配布による事例検討や指導案作成も取り入れていく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教科書や配布された資料を熟読し理解しておくこと。課題ごとのレポートを提出すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

「乳幼児期の子ども理解に対する発達観点、教育的観点、心理的観点、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する力」を身に付けるための演習科目である。保育内容の5領域と合わせて学び、保育の専門的知識や技能の修得する機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 60%、小テストやレポート、授業への積極的な参加態度 40%

<教科書>

金澤妙子・佐伯一弥（2012.9.20）

「演習 保育内容総論」

<参考書>

文部科学省（2017）

幼稚園教育要領

フレーベル館

厚生労働省（2017）

保育所保育指針

フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づく保育の基本	授業の概要、保育所保育指針・幼稚園教育要領の理解
2	保育の全体構想と保育内容	保育内容の所在、子ども理解の要素、事例から理解
3	保育内容の歴史の変遷	歴史の変遷からの学び、現在の課題の理解
4	遊びから捉える保育内容と子ども理解	遊びの観察記録から理解
5	生活から捉える保育内容と子ども理解	一日の生活の記録から保育内容の理解と指導案の作成
6	環境から捉える保育内容と子ども理解	環境と環境構成の理解
7	発達から捉える保育内容と子ども理解	身体的発達の過程や個と集団の発達の理解
8	幼稚園と保育所の保育内容の展開	養護と教育が一体的に展開する保育と指導案の作成
9	環境を通して行う保育	環境の展開と保育内容の展開
10	遊びによる総合的な保育	遊びを総合的に捉えた保育内容の展開
11	生活や発達の連続性に考慮した保育	連続性を考慮した保育内容の展開と指導案の作成
12	家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育	連携教育による保育内容の展開
13	保護者のニーズ等による多様な保育の展開	乳児保育、長時間保育、預かり保育等の理解
14	支援を必要とする子どもの保育、多文化共生保育の理解	個々の子どもの実態に応じて支える保育の理解
15	今日的課題を踏まえた保育とまとめ	保育内容の展開、保育の理解

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	34202		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	表現B(音楽表現)		担当者名	高崎 展好			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼児期における音楽教育の意義を考え、多様な音楽表現と音楽的要素を含んだ遊びの活動を通して、その指導法を学ぶ。様々な特性を持った子どものニーズに応えられるよう、どんな子どもの心にも届く音楽表現を目指し、様々な方法論を学ぶ。また、子どもを理解し、人間性豊かな指導者になるための基本の考え方を身に付ける。音楽表現のレパートリーを数多く会得し、保育の場で活用、実践できることを目指す。

<授業の到達目標>

幼稚園教育要領、保育所保育指針より領域「表現」のねらいと内容を理解し、幼児教育において音楽表現の果たす役割、効果について学修を深める。保育者として子どもたちに表現することの楽しさを伝えるためには、自身が楽しむことが重要です。楽しく音楽表現を行うため、歌唱を通して、正しい知識と技能を修得し、実践を通じた豊富な経験を身に付けることを目標としたい。

<授業の方法>

講義と演習の形式で様々な音楽表現を身に付ける。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本講義では楽譜などを配布。配布資料を整理できるファイルを各自準備すること。各回講義内容はテキスト「一人一人を大切にすることユニバーサルデザインの音楽表現」に沿っています。必ず予習を行うこと。また、演習で行った音楽表現内容は必ず復習をすること。会得できているか定期的の確認テストを行う。次週課題(事前予告)の予習60分・これまでに学習した課題の復習60分。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

表現B(音楽表現)を学ぶことにより、幼稚園教育要領、保育所保育指針より、5つの領域の1つである「表現」に示される「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感情や表現する力を養い、創造性を豊かにする」について理解を深め、修得するための科目である。こども発達学科のディプロマポリシーに明示される、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付けるための科目である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲 40%、講義内での課題、レポート提出 20%、グループワーク 20%、実技テスト 20%

<教科書>

星山麻木 編著、板野和彦 著(発行2015年8月10日 初版第1刷)

一人一人を大切にすることユニバーサルデザインの音楽表現

<参考書>

発行2017年6月1日

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

チャイルド本社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本講義の概要、進め方について、音楽表現とは何かを学ぶ
2	基礎的な音楽表現①	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現①
3	基礎的な音楽表現②	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現②
4	基礎的な音楽表現③	ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現③
5	子どもの発達と音楽表現①	幼稚園教育要領より領域「表現」と音楽表現
6	子どもの発達と音楽表現②	「表現」とは
7	子どもの発達と音楽表現③	音楽の力
8	子どもの発達と音楽表現④	ユニバーサルデザインの音楽表現
9	子どもの発達と音楽表現⑤	音楽表現とコミュニケーション
10	子どもの発達と音楽表現⑥	リズムの力
11	子どもの発達と音楽表現⑦	豊かな心の発達を促す音楽表現
12	子どもの発達と音楽表現⑧	ことばとコミュニケーションの発達を促す音楽表現
13	子どもの発達と音楽表現⑨	認知や社会性の発達を促す音楽表現
14	創作演習	保育における音楽表現の実践演習
15	保育実践演習と総括	表現発表と本講義のまとめ

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	34105		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	子どもとマルチメディア		担当者名	本庄 慶樹			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育に情報機器を活用することは当然の事となり、特にコンピューターと基本的なソフトを活用できる資質は必須なものである。特に、子どもを取り巻くインターネットを含む情報や情報機器の環境は年々変化しており、現状の変化への感受性も教育者の資質といえよう。そういった資質を磨くために子どもに何かを伝える工夫と、今後の情報機器の利用のあり方を考えていく。

<授業の到達目標>

具体的には、保護者への情報発信の工夫と子どもの教育への情報機器の利用を実践的な課題に取り組み教育の場で活用できる技術と問題解決能力、論理的思考力を育む。また、課題の創作活動を通して、コンピューターを活用したメディアでの芸術的な技術力、表現力を身につける。

<授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた実習形式で行うため、PCは必携である。主にMicrosoft社製のOfficeを使用して学習を進める。自他の作品についても考察し、自己能力の向上に努める学習状況を評価の対象とする。また、教育現場で即戦力となる文書や資料の作成、発表を授業内課題とし、その課題提出、発表をもって成績評価とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

Microsoft社製のOfficeのWord・PowerPointを使用するので、操作については学習しておくことを推奨する。授業時間は、課題制作の方法を学び試作を行う時間、または発表及び他者の発表から学ぶ時間である。別に期限までに課題を制作する時間が各90分程度必要である。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの子どもの理解に対して発達の観点、教育的観点等、多面的に理解した上で（DP2）、情報リテラシー・数量的スキルを利活用し、問題解決能力、論理的思考力を身につける（DP3）。ICTを利活用したコミュニケーション能力で家族と地域をめぐる子どもの環境を整備・改善する能力を身に付ける（DP4）。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出課題の完成度 30%、提出課題の取り組み 30%、講義内学習発表状況 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Eメールとクラウドの活用	Eメールやクラウドについての知識の再確認と、現在の子どもを取り巻く問題点と課題を考える。
2	Wordでの描画	ポスター作成を通してWordの描画についての機能と操作（特にベクター画像）を技術習得する。
3	レイアウトと、素材利用、コラージュ	レイアウトを工夫して行事のしおり作成をする。また素材利用について考える。
4	子どもとプログラミング教育	プログラム言語Scratchを使用し、プログラミングとアルゴリズムについて学ぶ。
5	子どもとプログラミング教育実践（1）	子どもの教育に利用できるプログラミング作成する。
6	子どもとプログラミング教育実践（2）	プログラミングできるブロックを使っての子ども教育を考える。
7	ガジェット制作から学ぶ	アニメーション作成を通して、パワーポイントでの動画作成の基本操作を学ぶ。
8	電子絵本制作から学ぶ（1）	既存の絵本を作画することで、場面設定を学ぶ。また、電子絵本での可能性を考察する。
9	電子絵本制作から学ぶ（2）	発表や、ビデオ書き出し等教育現場の活用方法を考察する。
10	電子人形劇制作から学ぶ（1）	作品制作に必要な構成力を磨く。
11	電子人形劇制作から学ぶ（2）	発表を通じて、課題発見、解決の能力を養う。
12	動画制作から学ぶ（1）	様々のコンピュータスキルを駆使し、課題制作を通して問題解決能力を磨く。
13	動画制作から学ぶ（2）	制作と発表を通して、発達の観点、教育的観点等、多面的に学ぶ。
14	Webサイトの現状について	園、学校等のWebサイトの現状について考える。
15	Webサイト作成	HTML、CSSを学び、制作技術を学ぶ。

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52006	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保育実習指導ⅠB(施設)	担当者名	小島啓子、酒井健太郎、坪田章彦			○			
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習ⅠA（保育所）による保育現場での体験的学習と専門科目の学習を統合し、保育現場において求められる的確で高度な子ども理解の力と高度な実践的保育技能の習得を目指した演習を中心に進める。また、実習生が乳幼児に与える影響の大きさを自覚し、実習の心構え、姿勢、立ち居振る舞い等における各自の課題解決に取り組む。こども発達学科ディプロマポリシー「保育・教育実習、実践活動等の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を身に付けている。」及び「主体的に自己の学習を振り返り、セルフマネジメント能力と生涯学習力を身に付けている。」に対応する。

<授業の到達目標>

①的確な子ども理解とそれに即した指導・援助のあり方を学ぶ。②各領域における教材作成と発達に即した保育技能・保育実践力を高める。③年齢に応じた指導計画を立案する力を身に付ける。④実習日誌への適切な記入の仕方を習得する。⑤実習関係書類の作成やオリエンテーション等、実習に向けた諸準備を適切に行う。⑥自己課題を明確化して事前準備をすすめ、実習後は課題の達成度や成果・改善点を整理する。

<授業の方法>

講義・演習（指導計画作成・保育技術）、グループワーク、各領域の模擬保育および相互評価、個別指導等を適宜組み合わせを進める。また、必要に応じて上級生（保育実習Ⅱ既習者）等をゲストに迎えて模擬保育等の演習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

*保育実習ⅠA（事前指導）で使用した「実習の手引き」、配布資料・教材等を熟読する。*保育実習ⅠA（保育所）における指導担当保育士による指導・助言に基づいて課題を整理しクリアするよう努める。*保育実践に必要なスキル（器楽演奏・弾き歌い・各種遊びの指導、絵本の読み聞かせ等）の反復練習を継続して行う。*指導計画案を的確に作成し、それに基づく模擬保育の練習を行うなどの予習をする。*指導計画案添削後あるいは模擬保育実践後に修正箇所を改善し実践力を高める。*自己課題を整理し課題の克服に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目を受講して得られる知識や能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定める「学生が本学における学習と経験を通じ身につける能力」のうち以下に該当します。保育実習や教育実習の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を養います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度 20%、課題（レポート・指導計画案等）提出 40%、保育技能実技・模擬保育実践 40%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会

「保育実習の手引き」

フレーベル館

厚生労働省

保育所保育指針（平成29年告示）

フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省

幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領

フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育実習Ⅱの目的と意義	保育実習Ⅱと保育実習ⅠAの相違点、実習の意義とねらい
2	保育の理解	保育の基本、保育内容と方法、障がいのある子どもの理解
3	保育実技指導（1）	絵本の読み聞かせ、ペープサート、手遊び、造形遊び等
4	保育実技指導（2）	弾き歌い、言葉遊び、わらべうた、集団遊び、運動遊び等
5	模擬保育（1）	学生による模擬保育の実践・相互評価（音楽遊び）
6	模擬保育（2）	学生による模擬保育の実践・相互評価（運動遊び）
7	模擬保育（3）	学生による模擬保育の実践・相互評価（造形遊び）
8	模擬保育（4）	学生による模擬保育の実践・相互評価（言葉遊び）
9	実習指導計画案と実習日誌	各年齢における子どもの姿・ねらい・環境構成・保育者の援助等各項目のよりよい記入の仕方
10	実習自己課題の明確化	保育実習ⅠAの反省・改善点を踏まえた保育実習Ⅱにおける自己課題の設定
11	実習に向けた諸準備	実習関連書類（実習生自己紹介書等）の適切な書き方、実習園でのオリエンテーションの受け方等
12	実習日誌の記入の仕方	環境構成・子どもの活動・保育士の援助等の適切な書き方と考察の深め方
13	実習における留意事項	守秘義務、子どもの生命・安全確保、人権と最善の利益、個人情報保護等について
14	実習事前指導総括	実習生の心構え、実習におけるマナー・留意事項等について
15	実習事後指導・まとめ	実習自己評価、実習の振り返り（グループディスカッション）、実習のまとめ

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52005		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導ⅠA(保育所)		担当者名	檜 日佳、趙 秋華、田部永子 平松 美由紀			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習ⅠAの事前学習と事後学習のためのものである。保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習目標・課題を明確にするのと、保育実習の位置づけ、各保育実習の福祉施設の目的や保育士の保育の基本・業務などを学び、実習に際して、事前・事中・事後においてなすべき内容を理解し、保育実習の全体を把握する。社会人としてのマナーや保育士としての心構えも具体的・実践的に学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習の計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、個別指導、グループワーク

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に実習の手引きを熟読して授業に臨むこと(60分)。配布資料をファイルし、授業後に内容を確認し整理すること(60分)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

保育士資格取得のために必要な科目である。こども発達学科のディプロマポリシーDP6「保育・教育実習、実践活動等の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を身に付けている」及びDP8「広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける」に対応し、社会人、保育士としての課題を明確にする機会とする。3年次配当の保育実習指導Ⅱに引き継がれ、さらに専門的知識の習得や保育技術力アップを図り、保育者としての自覚と実践力を高める機会とする。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

提出課題 40%、定期試験 40%、受講態度 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2017)

保育の手引き

<参考書>

厚生労働省(2017)

保育所保育指針

フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の基本的理解	保育実習の意義・目的/実習の概要
2	保育所実習の内容(1)	保育の基本/保育の内容・方法
3	保育所実習の内容(2)	障がい児保育、子どもの健康及び安全
4	保育所実習の内容(3)	保育所実習の実際
5	指導計画の作成(1)	保育課程と指導計画/模擬保育見学
6	指導計画の作成(2)	指導案作成の手順・留意事項/模擬保育見学
7	指導計画の作成(3)	指導案作成・模擬保育見学(1)
8	指導計画の作成(4)	指導案作成・模擬保育見学(2)
9	実習課題の明確化	自己課題の持ち方
10	指導案に基づく模擬保育	指導案に基づく模擬保育の実践
11	実習の準備(1)	実習関連書類の作成
12	実習の準備(2)	実習日誌の形式と記入の仕方/実習園でのオリエンテーション
13	実習の留意点と事前指導の総括	守秘義務と子ども・保護者の人権擁護/実習生としての心構え
14	事後指導(1)	実習成果や新たな課題の共有と健闘
15	事後指導(2)	実習総括/自己評価・課題の整理・学習目標の明確化

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52007		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習ⅠA(保育所)		担当者名	檜 日佳、趙 秋華、田部永子 平松 美由紀			○		
配当年次	2	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

保育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

保育士資格取得のために必要な実習である。こども発達学科のディプロマポリシーを踏まえ、施設実習の経験を踏まえ。社会人としてのルールを遵守し、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を習得し、社会人、保育士としての課題を明確にする機会にする。3年次配当の保育実習Ⅱに引き継がれ、さらに専門的知識野習得や保育技術力のアップを図り、保育者としての実践力を高められる機会とする。本実習はこども発達学科のディプロマポリシーDP6(保育・教育実習、実践活動等の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を身に付けている。)及びDP8(広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける。)に対応している。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前オリエンテーション、反省会10%実習評価90%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2019)

保育実習の手引き

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育実習	実習園における事前オリエンテーション
2	保育実習	実習園において指導のもとに実習
3	保育実習	実習園において指導のもとに実習
4	保育実習	実習園において指導のもとに実習
5	保育実習	実習園において指導のもとに実習
6	保育実習	実習園において指導のもとに実習
7	保育実習	実習園において指導のもとに実習
8	保育実習	実習園において指導のもとに実習
9	保育実習	実習園において指導のもとに実習
10	保育実習	実習園において指導のもとに実習
11	保育実習	実習園において指導のもとに実習
12	保育実習	実習園において指導のもとに実習
13	保育実習	実習園において指導のもとに実習
14	保育実習	実習園において指導のもとに実習
15	保育実習	実習園における実習反省会

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	53013		区 分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校支援ボランティア		担当者名	大野 光二			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学ぶ。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。活動の記録を日誌として残し、成果と課題をレポートにまとめて最後に発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを確認しておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、記録に残しておくこと。(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学校支援ボランティアの在り方について学び、学校に出かけ児童・生徒の学習面や生活面での支援や指導を行うことを通して、教育経営学科のディプロマポリシーの7(子どもの未来に対する強い使命感と責任を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ボランティア活動への取組みの様子 40%、レポート及び発表の内容 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。
15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52009		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)		担当者名	檜寄日佳、田部永子、平松美由紀			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習ⅠA(保育所)による保育現場での体験的学習と専門科目の学習を統合し、保育現場において求められる的確で高度な子ども理解の力と高度な実践的保育技能の習得を目指した演習を中心に進める。また、実習生が乳幼児に与える影響の大きさを自覚し、実習の心構え、姿勢、立ち居振る舞い等における各自の課題解決に取り組む。

<授業の到達目標>

①的確な子ども理解とそれに即した指導・援助のあり方を学ぶ。②各領域における教材作成と発達に即した保育技能・保育実践力を高める。③年齢に応じた指導計画を立案する力を身に付ける。④実習日誌への適切な記入の仕方を習得する。⑤実習関係書類の作成やオリエンテーション等、実習に向けた諸準備を適切に行う。⑥自己課題を明確化して事前準備をすすめ、実習後は課題の達成度や成果・改善点を整理する。

<授業の方法>

講義・演習(指導計画作成・保育技術)、グループワーク、各領域の模擬保育および相互評価、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生(保育実習Ⅱ既習者)等をゲストに迎えて模擬保育等の演習を行う。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

*保育実習ⅠA(事前指導)で使用した「実習の手引き」、配布資料・教材等を熟読する。*保育実習ⅠA(保育所)における指導担当保育士による指導・助言に基づいて課題を整理しクリアするよう努める。*保育実践に必要なスキル(器楽演奏・弾き歌い・各種遊びの指導、絵本の読み聞かせ等)の反復練習を継続して行う。*指導計画案を的確に作成し、それに基づく模擬保育の練習を行うなどの予習をする。*指導計画案添削後あるいは模擬保育実践後に修正箇所を改善し実践力を高める。*自己課題を整理し課題の克服に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目を受講して得られる知識や能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定める「学生が本学における学習と経験を通じ身に付ける能力」のうち以下に該当します。保育実習や教育実習の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を養います。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業への意欲・態度 20%、課題(レポート・指導計画案等)提出 40%、保育技能実技・模擬保育実践 40%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会

「保育実習の手引き」

フレーベル館

厚生労働省

保育所保育指針(平成29年告示)

フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省

幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領

フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育実習Ⅱの目的と意義	保育実習Ⅱと保育実習ⅠAの相違点、実習の意義とねらい
2	保育の理解	保育の基本、保育内容と方法、障がいのある子どもの理解
3	保育実技指導(1)	絵本の読み聞かせ、ペープサート、手遊び、造形遊び等
4	保育実技指導(2)	弾き歌い、言葉遊び、わらべうた、集団遊び、運動遊び等
5	模擬保育(1)	学生による模擬保育の実践・相互評価(音楽遊び)
6	模擬保育(2)	学生による模擬保育の実践・相互評価(運動遊び)
7	模擬保育(3)	学生による模擬保育の実践・相互評価(造形遊び)
8	模擬保育(4)	学生による模擬保育の実践・相互評価(言葉遊び)
9	実習指導計画案と実習日誌	各年齢における子どもの姿・ねらい・環境構成・保育者の援助等各項目のよりよい記入の仕方
10	実習自己課題の明確化	保育実習ⅠAの反省・改善点を踏まえた保育実習Ⅱにおける自己課題の設定
11	実習に向けた諸準備	実習関連書類(実習生自己紹介書等)の適切な書き方、実習園でのオリエンテーションの受け方等
12	実習日誌の記入の仕方	環境構成・子どもの活動・保育士の援助等の適切な書き方と考察の深め方
13	実習における留意事項	守秘義務、子どもの生命・安全確保、人権と最善の利益、個人情報保護等について
14	実習事前指導総括	実習生の心構え、実習におけるマナー・留意事項等について
15	実習事後指導・まとめ	実習自己評価、実習の振り返り(グループディスカッション)、実習のまとめ

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	51008		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)		担当者名	檜寄日佳、田部永子、平松美由紀			○		
配当年次	3	配当学期	前期・後期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教諭免許取得のためには現場での体験的な学習が必須である。事前指導では、これまでの幼児教育に関する学びを整理し、理論と実践をつなげるために、模擬保育、教材研究、指導案の作成、保育技術の復習等、実習を想定した様々な準備をしていく。また、「幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う」人間教育であることから、実習生の立ち居振る舞いも問われる。教育実習の意義と心構えを十分に理解し、自己課題を明確にするための学びも重視する。事後指導では、実習の成果と残された課題を分析し、幼稚園教諭としての自覚と問題意識を高める。

<授業の到達目標>

1. 幼稚園実習の事前準備を通して保育の方法と技術を見直し、自己課題を明確にする。2. これまでに学んだ理論を生かして指導案の作成、模擬保育の実施、教材研究、保育技術の復習などを行い、実習に備える。3. 教育実習の意義を理解し、心構えを自覚すると共に、不安を和らげてよい緊張感をもって実習に臨めるようにする。4. 実習後、成果の確認と残された自己課題を分析し、幼稚園教諭としてのさらなる学びへの意欲を持つ。

<授業の方法>

「教育実習の手引き」に沿いながら、講義と指導案作成、模擬保育、教材研究等を行う。保育技術は実習で使えるレベルに身につけているかを具体的に確認する。また、先輩の模擬保育やDVD視聴などを取り入れて、より実践的に授業を進める。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

「教育実習の手引き」と「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を熟読すること。指導案作成資料や教材資料集を参考に指導案を作成、十分な教材研究と準備、シミュレーションを行い、模擬保育に備えること。幼児教育関係図書、保育雑誌を参考にする習慣をつけること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

幼稚園教諭免許状取得のために必要な科目である。これまで学んだ専門的知識や保育技術を実践することで、こども発達学科のディプロマポリシー「教育実習の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力」を修得し、幼稚園教諭としての課題を明確にし、自覚と実践力を高める機会とする。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題提出 40%、定期試験 40%、受講態度・意欲 20%などで総合的に評価する。

<教科書>

環太平洋大学(2019)

教育実習の手引き(幼稚園)

<参考書>

文部科学省(2017)

幼稚園教育要領

フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省(2017)

幼保連携型認定こども園教育・保育指針

フレーベル館

文部科学省(2018)

幼稚園教育要領解説

フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	幼稚園実習の理解	教育実習の意義と目的、教育実習の目標と自己課題、実習の段階と計画
2	保育者の資質と幼児理解	保育者の役割、保育者の資質、発達の理解
3	実習の準備	実習の心得、実習の流れ、実習の具体的準備
4	実習の姿	DVD視聴「保育者の役割」、保育者の姿の読み取り
5	実習日誌の形式と書き方	実習日誌の具体的な書き方とポイント
6	指導案の書き方とポイント	指導計画案の立て方の手順と書き方
7	指導案の書き方と模擬保育(1)	部分実習指導案の作成と模擬保育
8	指導案の書き方と模擬保育(2)	半日実習指導案の作成と模擬保育
9	指導案の書き方と模擬保育(3)	全日実習指導案の作成と模擬保育
10	模擬保育の実施と評価(1)	部分実習模擬保育の実施と評価、実習日誌の記入の仕方
11	模擬保育の実施と評価(2)	全日指導模擬保育の実施と評価、実習日誌の記入の仕方
12	幼児の理解と援助	気になる幼児の理解と援助
13	実習直前指導	幼稚園オリエンテーション、実習関連書類の作成と諸注意
14	教育実習のまとめ	実習を振り返って・お礼状の作成
15	総括・個別面談	実習評価のフィードバックと今後の課題の明確化

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	53010		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)		担当者名	檜 日佳			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学んできた教育・保育の理論や技術、教育実習や保育実習で得た学びを個別の「履修カルテ」を通して振り返り、自己課題と学習内容を明確にする。また、保育者に共通して求められる資質能力、保育活動における指導力が確かなものとなるよう、各自が事例分析やグループディスカッションを通して保育者としての実践力の向上を図る。

<授業の到達目標>

次の4点の学びを到達目標とする。①学んできた専門知識を総合的に表現するとともに、子どもの実態を踏まえた学級運営のあり方に関する理解②今日的課題を認識した保育活動の計画・実践方法の理解③使命や職務について理解し、責務を果たそうとする姿勢の理解④保護者との連携や保育援助のあり方に関する理解

<授業の方法>

視聴覚教材の利用や事例をもとにした分析、ディスカッションを通して、課題意識をもったり自分の考えを整理して発表したりする演習を中心とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

配布した資料や事例を熟読し、予習として課題に沿ったレポートを提出すること。授業後、レポートを再読し整理すること。新聞や保育雑誌を通して、教育や保育の今日的課題を認識すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

地本科目を受講して得られる知識や能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定める「学生が本学における学習と経験を通じ身につける能力」のうち以下に該当します。地域に開く「子育て支援実践活動」への参加体験を積み重ね、地域社会の実情に応じた「子育て支援」を推進する実践力・創造的思考力を養います。保育実習や教育実習の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を養います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業にかかわる提出物 40%、試験 30%、授業における諸活動 30%、特別な理由がない限り全出席とすること

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の目的、概要、進め方	履修カルテに基づく振り返り、自己課題の抽出
2	教育の本質の理解（1）	保育実践にみる子どもの姿の理解、グループディスカッション（遊び）
3	教育の本質の理解（2）	保育実践にみる子どもの姿の理解、グループディスカッション（生活習慣）
4	教育の本質の理解（3）	保育実践にみる子どもの姿の理解、グループディスカッション（行事）
5	保育内容の理解（1）	教育実習日誌の1ページより（生活習慣）、理論と実践の融合を求めて
6	保育内容の理解（2）	教育実習日誌の1ページより（行事）、理論と実践の融合を求めて
7	保育内容の理解（3）	教育実習日誌の1ページより（造形活動）、理論と実践の融合を求めて
8	発達障がい理解と指導（1）	事例をもとにグループディスカッション（自閉症スペクトラム）
9	発達障がい理解と指導（2）	事例をもとにグループディスカッション（気になる子ども）
10	保護者支援と保護者対応（1）	事例をもとにグループディスカッション（保護者啓発）、保護者の願いとは
11	保護者支援と保護者対応（2）	事例をもとにグループディスカッション（クレーム対応）、保護者の願いとは
12	幼稚園業務の実際	幼稚園の一日の理解と対応、スケジュール表作成
13	保育園業務の実際	保育園の一日の理解と対応、スケジュール表作成
14	まとめ（1）	履修カルテの振り返りと最終チェック
15	まとめ（2）	全体を通しての質疑応答、自己課題の解決

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	53014		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	インターンシップ		担当者名	真久田 絹代			○		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観・人生観を醸成する」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする」ことを目的とする。

<授業の到達目標>

1. 社会人として働くための心構えやマナーを身に付ける。2. 就職活動に必要な書類を知り、作成できる。3. 卒業後のキャリアビジョンについて説明ができる。

<授業の方法>

①4月・5月・6月の第1・第3 金曜日5限目に集中講義型の演習を行います。内容はマナー講座・先輩の実践報告・グループワークによる演習・個別指導によりインターンシップのスケジュール立案等。②7月・8月・9月・10月はインターンシップ実習期間とする。③12月の第1・第3金曜日5限目に集中講義型の演習を行います。（事後指導や実践報告）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習として希望する企業調べをする。（1時間）事後学習として実習報告書の作成と発表の準備をする。（2時間）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

就業体験（インターンシップ）を通して、「仕事観、人生観を醸成する。」、「残りの学生生活ですべきことを明確にする。」科目である。教育経営学科のディプロマポリシー4「周囲の学校関係者と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている」と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前・事後学習における課題への取り組み（50%）就業先での評価（50%）

<教科書>

特に指定しない

<参考書>

渡辺三枝子

はじめてのインターンシップ

アルテスパブリッシング

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	インターンシップの目的と心構えについて
2	事前指導1	インターンシップ希望登録の目的とシステムについて
3	事前指導2	先輩の体験談を聞く
4	事前指導3	エントリーシートの作成
5	事前指導4	エントリーシートの作成
6	事前指導5	外部講師によるビジネスマナー講習
7	インターンシップ1日目	就業先でのオリエンテーション
8	インターンシップ2日目	担当業務への従事、日誌の作成
9	インターンシップ3日目	担当業務への従事・日誌の作成
10	インターンシップ4日目	担当業務への従事・日誌の作成
11	インターンシップ5日目	インターンシップ受け入れ担当者からの講評とまとめ
12	インターンシップのまとめ	受け入れ先へのお礼状、体験報告書の作成
13	事後指導1	インターンシップ報告会
14	事後指導2	インターンシップ報告会2
15	まとめ	実習報告書の作成、レポートの作成